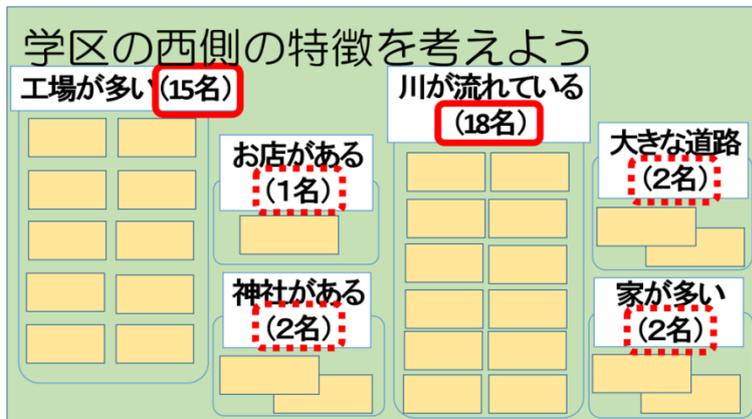


実践記録（小3・社会）

1 ねらい

意見交流を通して、自分の考えを深めることができるようにする。

2 手立て



子どもたちが考えた学区の特徴を一つずつ画用紙に書かせ、黒板に貼らせる際に、教師がキーワードでまとめ、人数を書く。これによって、級友がどんなことを特徴と考えているのか分かるようにして、意見交流の場を作るとともに、人数の違いに着目させることができるようにする。

3 実践の様子

社会科の、「わたしたちのまち」という単元で学区を東西南北に分け、学区探検を行った。子どもたちに与えた学区探検の視点は、「土地の様子」、「建物の様子」、「道路の様子」の3つとした。その後、学区の特徴を捉えるため、方面ごとにその特徴を強く表しているものを子どもたちに考えさせた。その際、子どもたち一人一人が考える特徴を一つ一つ画用紙に書かせ、黒板に貼っていくことで、情報を共有する時間を作った。情報を共有させることで、子どもは自分の考えと友達の考えの共通点や相違点に気付くことができ、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた。また、ただ黒板に貼るだけではなく、子どもたちが気付いた特徴をかたまりとし、教師側で簡単なキーワードに変換することと、何人の子どもたちがその特徴に気付いたのかという人数を示した。いくつかのキーワードで特徴をまとめた後、「○方面と言われたらすぐに思い付くほど特徴を表しているものは何ですか」と問いかけることで、出てきた特徴の中から、本当に必要なものが何かを考えさせた。すると、子どもたちは、人数の違いに気付き、人数が多いもの、すなわち、それだけ多くの子どもたちがその特徴に気付いたということはそれだけ特徴的なものであり、その方面の特徴を考えたときに大事なものであると結論付けた。また、人数が多いものだけでなくよいのかと問いかけることで、人数が少なくても、目立っている特徴的なものにも着目させ、○方面の特徴をしっかりと捉えさせることができた。

このように画用紙を使い、子どもたちの考えや気付きを整理することで、本当に必要な情報にたどり着くことができた。初めは特徴的なものを1つしかとらえることが出来なかった子どもも、整理する活動を通して、自分の初めの考えに加えて、新たな情報を付け加えて、方面の特徴を捉えることができた。

4 成果と課題

- 3年生という成長過程を考え、黒板を用いて教師が整理し、キーワード化してまとめることで、同じ特徴に気付いた人の人数に着目させることができた。
- 考えを画用紙にまとめることで、気になったキーワードを黒板に見に来ることができ、子どもたちの言葉を確認することができた。
- 黒板を使い、情報を共有することで、自分だけでは気付けなかった考えに気付かせることができ、子どもたちの考えを深めることができた。
- 特徴を考えさせる発問をしっかりと考える必要があった。こちらが意図しているものと子どもたちの考えていることにズレが生じてしまった。